

平成24年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

平成25年9月

福井県教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	3
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	平成24年度福井県教育委員会の活動状況	5
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	12
4	教育委員会関係の許認可の状況	12
5	公立高等学校入学者選抜学力検査（平成25年3月実施）結果の状況	15
6	平成24年度実施 公立学校教員採用選考試験の実施状況	16
7	研修の実施状況	18
8	福井大学教職大学院との連携の状況	19
V	平成24年度の教育関係施策の取組実績	20
1	基本的方向	20
2	実施結果の概要	20
VI	有識者からの意見	43

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）の改正により、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成20年4月1日改正法施行）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「平成24年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書を県民の皆様にご覧いただき、県の教育行政についてのご意見やご要望として今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

II 点検・評価について

1 対象期間

平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

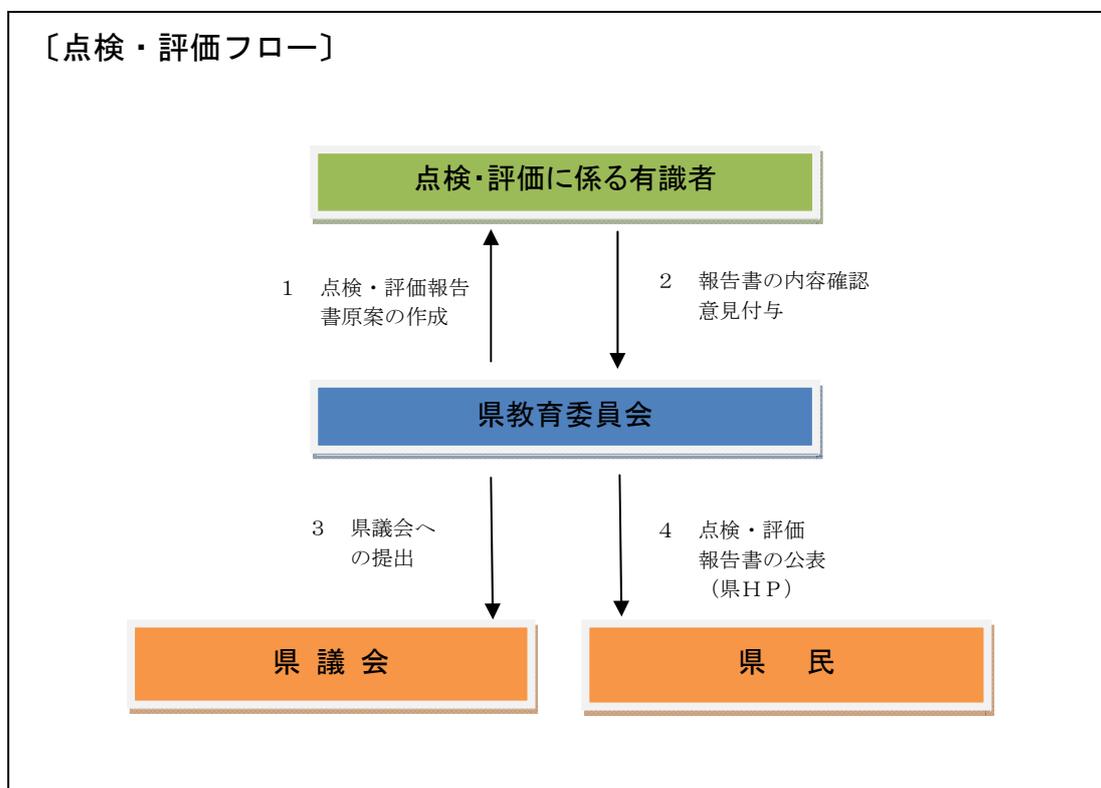
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

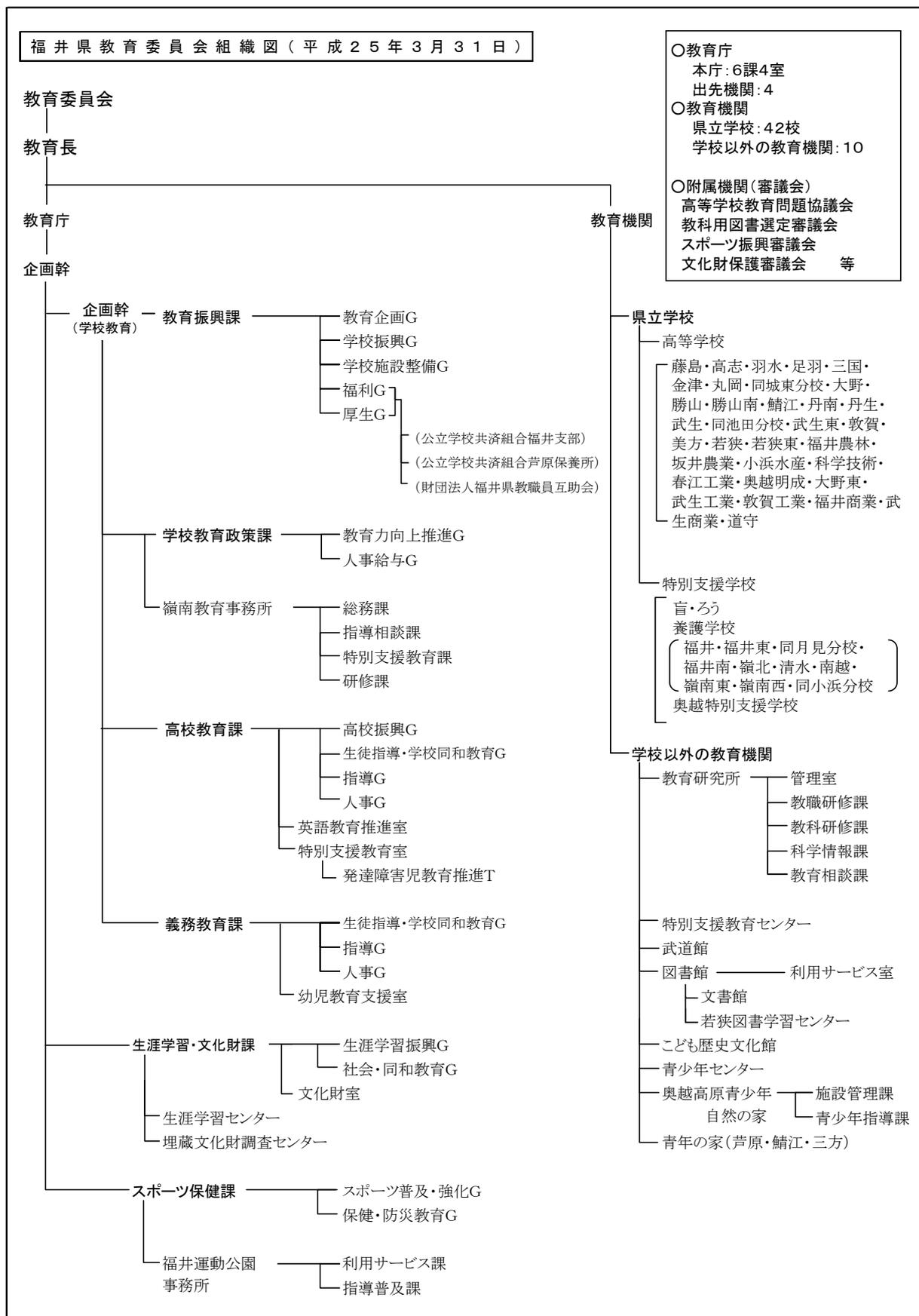
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



III 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算額A	調定額B	収入済額C	C/A	C/B
教育振興課	1,999,764	2,000,666	1,998,076	99.9	99.9
学校教育政策課	14,342,420	14,317,432	14,317,432	99.8	100.0
高校教育課	273,942	269,653	251,264	91.7	93.2
義務教育課	344,856	331,044	331,044	96.0	100.0
生涯学習・文化財課	169,552	169,004	168,997	99.7	100.0
スポーツ保健課	371,775	362,439	362,439	97.5	100.0
計	17,502,309	17,450,238	17,429,252	99.6	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算額A	支出済額B	翌年度繰越額C	B/A
教育振興課	14,578,431	13,925,963	42,426	95.5
学校教育政策課	65,383,607	65,158,760	0	99.7
高校教育課	620,015	586,017	0	94.5
義務教育課	936,700	895,814	0	95.6
生涯学習・文化財課	834,404	797,769	2,754	95.6
スポーツ保健課	998,560	969,452	0	97.1
計	83,351,717	82,333,775	45,180	98.8

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 平成24年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成24年4月1日～平成24年10月31日)

	氏名	職業
委員長	林 逸 男	会社役員
委員（委員長職務代理者）	清 川 肇	会社役員
委員	川 畑 紀 義	歯科医師
委員	吉 井 正 雄	医師
委員	平 泉 和 美	児童文学作家
委員（教育長）	林 雅 則	

(平成24年11月1日～平成25年1月9日)

	氏名	職業
委員長	清 川 肇	会社役員
委員（委員長職務代理者）	川 畑 紀 義	歯科医師
委員	林 逸 男	会社役員
委員	吉 井 正 雄	医師
委員	平 泉 和 美	児童文学作家
委員（教育長）	林 雅 則	

(平成25年1月10日～平成25年3月31日)

	氏名	職業
委員長	清 川 肇	会社役員
委員（委員長職務代理者）	川 畑 紀 義	歯科医師
委員	吉 井 正 雄	医師
委員	小 泉 信太郎	会社役員
委員	西 野 里 佳	元PTA役員
委員（教育長）	林 雅 則	

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 21回
 - ・ 附議事項 57件
- 第960回（平成24年4月10日（火））
協議・報告事項のみ
- 第961回（平成24年4月26日（木））
- ・ 平成24年度福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
 - ・ 福井県心身障害児就学指導委員の委嘱について
 - ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について
- 第962回（平成24年5月11日（金））
- ・ 教職員の懲戒処分について
- 第963回（平成24年5月24日（木））
- ・ 教職員の懲戒処分について
 - ・ 福井県社会教育委員の会議委員の委嘱について
 - ・ 福井県立歴史博物館運営協議会委員の任命について
 - ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について
 - ・ 福井県朝倉氏遺跡研究協議会規則の一部改正について
- 第964回（平成24年6月19日（火））
- ・ 平成25年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
 - ・ 平成24年度福井県立高等学校後期編入学者選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
- 第965回（平成24年7月10日（火））
- ・ 平成25年度使用の県立高等学校および県立特別支援学校高等部教科書採択資料作成委員の委嘱について
 - ・ 福井県立恐竜博物館運営協議会委員の任命について
- 第966回（平成24年8月6日（月））
- ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

- 第967回（平成24年8月20日（月））
 - ・ 福井県立学校設置条例の一部改正について
 - ・ 福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について

- 第968回（平成24年9月11日（火））
 - ・ 平成25年度使用福井県立高等学校および県立特別支援学校高等部の教科用図書の新採択について
 - ・ 平成23年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について
 - ・ 公益法人の寄附行為の変更について（(財)小浜市体育振興会）

- 第969回（平成24年10月17日（水））
 - ・ 平成24年11月1日付け人事異動について
 - ・ 平成25年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・ 福井県文化財保護審議会の委員の任命について
 - ・ 公益法人の残余財産処分許可について（(財)小浜市体育振興会）

- 第970回（平成24年10月30日（火））
 - ・ 平成25年度福井県立学校入学者募集定員について
 - ・ 平成25年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等の制定について
 - ・ 平成25年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学選考実施要項の制定について
 - ・ 福井県幼児教育支援プログラムの策定について
 - ・ 福井県教育委員会行政組織規則の一部改正について

- 第971回（平成24年11月13日（火））
 - ・ 平成25年度福井県公立学校栄養教諭採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・ 平成25年度福井県公立学校小・中学校事務職員および学校栄養士採用試験の採用内定者の決定について
 - ・ 福井県立恐竜博物館の設置および管理に関する条例の一部改正について

- 第972回（平成24年11月29日（木））
 - ・ 平成24年教育功労者表彰の被表彰者の決定について
 - ・ 福井県立若狭歴史民俗資料館運営協議会委員の任命について

- 第973回（平成24年12月17日（月））
 - ・ 平成25年度教職員人事異動方針について
 - ・ 平成25年度福井県公立小・中学校および県立高等学校の校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について

- 第974回（平成24年12月21日（金））
 - ・ 教職員の懲戒処分について

- 第975回（平成25年1月11日（金））
 - ・ 平成25年1月15日付け人事異動について
 - ・ 技能労務職から実習助手への任用替者の決定について

- 第976回（平成25年2月4日（月））
 - 協議・報告事項のみ

- 第977回（平成25年2月18日（月））
 - ・ 平成25年2月20日付け人事異動について

- 第978回（平成25年2月25日（月））
 - ・ 福井県立学校職員定数条例の一部改正について
 - ・ 市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について
 - ・ 平成25年度福井県公立学校再任用職員採用選考審査の採用内定者の決定について
 - ・ 平成24年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について

- 第979回（平成25年3月12日（火））
 - ・ 平成25年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職（教員出身者）の人事異動について
 - ・ 平成25年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について
 - ・ 福井県指定文化財の指定について
 - ・ 公益法人の寄附行為変更について（(財)福井県私立中学高等学校協会）
 - ・ 公益法人の残余財産処分許可について（(財)福井県私立中学高等学校協会）
 - ・ 公益法人の寄附行為変更について（(財)北陸育英会）
 - ・ 公益法人の残余財産処分許可について（(財)北陸育英会）

- 第980回（平成25年3月25日（月））
 - ・ 平成25年4月1日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について
 - ・ 平成25年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則の一部改正について
 - ・ 福井県奨学育成資金貸付基金管理規則の一部改正について
 - ・ 福井県における中高一貫教育校（附属中学併設）の設置方針の決定について
 - ・ 福井県ふるさと文学館（仮称）基本計画の決定について
 - ・ 福井県立芦原青年の家整備基本計画の決定について
 - ・ 公益法人残余財産処分許可について（(財)岡島美術財団）

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
平成24年 4月 3日	平成24年度教員初任者研修講話	林逸
4月10日	第960回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
4月24日	福井県市町女性教育委員の会	平泉
4月26日	第961回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
4月26日	知事との意見交換	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
5月 7日	永年勤続教職員表彰式	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
5月10日	市町教育委員会連絡協議会 総会	林逸
5月10日	市町教育委員会連絡協議会 研修会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
5月11日	第962回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
5月24日	第963回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
6月 1日	嶺南地区教育委員会協議会総会	吉井、林雅
6月19日	第964回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
6月20日	県議会本会議	吉井、林雅
6月22日	県議会本会議	川畑、林雅
6月26日	県議会本会議	清川、林雅
6月27日	県議会本会議	平泉、林雅
7月 9日	県議会本会議	林、林
7月10日	知事との意見交換	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
7月10日	第965回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
7月11日	学校訪問 (若狭高校、若狭東高校)	吉井
7月12日	学校訪問 (高志高校、羽水高校)	清川
7月12日	国民体育大会福井県準備委員会常任委員会	林、林
7月13日	学校訪問 (大野高校、勝山高校)	平泉
7月14日	学校訪問 (鯖江高校、武生東高校)	川畑
7月18・19日	全国都道府県教育委員会連合会第1回総会等	林、林
7月23日	学校訪問 (藤島高校、丸岡高校)	林逸
7月26日	県立学校長との意見交換会	林、清川、川畑、平泉、林
7月27日	国民体育大会福井県準備委員会第3回総会	林、林
7月31日	嶺南地区校長会	吉井
8月 6日	第966回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
8月 7日	教員採用試験面接	清川
8月 8日	教員採用試験面接	林、川畑、平泉、林

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
8月 9日	教員採用試験面接	林逸、清川、吉井
8月10日	教員採用試験面接	平泉
8月20日	いじめ等問題行動をなくす福井県全体会議	林、清川、川畑、吉井、林
8月20日	こども歴史文化館視察	林、清川、川畑、吉井、林
8月20日	第967回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
8月28日	福井県市町女性教育委員の会	平泉、林雅
9月11日	第968回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
9月11日	知事との意見交換	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
9月14日	県議会本会議	吉井、林雅
9月16日	マナビ・フェスティバル式典	清川、川畑、林雅
9月20日	県議会本会議	林、林
9月25日	県議会本会議	川畑、林雅
9月26日	県議会本会議	清川、林雅
9月28日	福井県屋外広告物審議会	川畑
9月29日	嶺南東養護学校学校祭	吉井
10月 6日	金津高校創立30周年記念式典	林逸
10月11日	県議会本会議	平泉、林雅
10月15日	福井保護司選考会	林逸
10月16日	県議会総務教育常任委員会視察	川畑、林雅
10月17日	第969回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
10月17日	知事との意見交換	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
10月29日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
10月30日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会視察	林逸、清川、川畑、吉井
10月30日	第970回教育委員会	林、清川、川畑、吉井、平泉、林
10月31日	管理職任用選考試験面接	清川、林雅
10月31日	いじめ等問題行動をなくす福井県研修会	林、清川、川畑、平泉、林
11月 1日	管理職任用選考試験面接	清川、林雅
11月 2日	管理職任用選考試験面接	川畑、林雅
11月 5日	管理職任用選考試験面接	川畑、林雅
11月 9日	福井県市町女性教育委員の会	平泉
11月10日	小浜中学校竣工式	吉井
11月12日	管理職任用選考試験面接	林逸
11月13日	管理職任用選考試験面接	吉井
11月13日	第971回教育委員会	清川、林、川畑、吉井、平泉、林
11月14日	管理職任用選考試験面接	林逸
11月15日	管理職任用選考試験面接	平泉
時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名

1 1 月 2 0 日	幼児教育支援センター開所式	清川、林雅
1 1 月 2 7 日	滋賀県中高一貫教育校視察	林、吉井、林
1 1 月 2 8 日	県議会本会議	平泉、林雅
1 1 月 2 9 日	第 9 7 2 回教育委員会	清川、林、川畑、吉井、平泉、林
1 1 月 3 0 日	県議会本会議	川畑、林雅
1 2 月 5 日	県議会本会議	清川、林雅
1 2 月 1 7 日	平成 2 4 年教育功労者表彰式	清川、林、川畑、吉井、平泉、林
1 2 月 1 7 日	第 9 7 3 回教育委員会	清川、林、川畑、吉井、平泉、林
1 2 月 1 8 日	県議会本会議	吉井、林雅
1 2 月 2 1 日	第 9 7 4 回教育委員会	清川、林、川畑、吉井、平泉、林
1 2 月 2 7 日	教育力向上推進会議	吉井
平成 2 5 年 1 月 1 1 日	第 9 7 5 回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
1 月 2 2 日	全国都道府県教育委員会連合会第 2 回総会等	清川、林雅
1 月 2 4 日	京都市中高一貫教育校視察	吉井
1 月 2 8 日	授業名人集団面談	清川、川畑
1 月 2 9 日	第 4 回県立高等学校改革検討委員会	清川、林雅
2 月 4 日	第 9 7 6 回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
2 月 6 日	学校訪問(丹生高校)	清川
2 月 7 日	県政功労者表彰式	清川、林雅
2 月 1 6 日	ふくい職業教育フェア	清川、小泉、林雅
2 月 1 8 日	第 9 7 7 回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
2 月 2 1 日	奥越特別支援学校視察	川畑、小泉、西野
2 月 2 3 日	坂井地区地方教育委員会連絡協議会	西野
2 月 2 5 日	第 9 7 8 回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
2 月 2 5 日	知事との意見交換	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
2 月 2 5 日	国民体育大会福井県準備委員会常任委員会	清川、林雅
2 月 2 7 日	県議会本会議	小泉、西野、林雅
3 月 1 日	県議会本会議	清川、林雅
3 月 1 日	県立学校卒業式(武生東、若狭東、勝山、金津)	川畑、吉井、小泉、西野
3 月 3 日	勝山南高校閉校式	小泉、林雅
3 月 3 日	県立学校卒業式(道守)	川畑
3 月 4 日	県立学校卒業式(武生商、大野)	川畑、小泉
3 月 5 日	県議会本会議	川畑、林雅
3 月 5 日	県立学校卒業式(美方)	吉井
3 月 6 日	県議会本会議	吉井、林雅

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
3月12日	県立学校卒業式(南越養護)	川畑
3月12日	知事との意見交換	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
3月12日	第979回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林雅
3月13日	県立学校卒業式(福井南養護、嶺北養護)	清川、西野
3月13日	福井保護司選考会	清川
3月15日	県立学校卒業式(嶺南西養護)	吉井
3月16日	中藤小学校竣工式	清川
3月19日	県議会本会議	西野、林雅
3月22日	北陸電力教育振興財団評議員会	清川
3月25日	第980回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
3月27日	ふくい優秀教職員表彰式	清川、川畑、小泉、西野、林
3月27日	辞令交付式	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	24. 6. 15 24. 9. 14 25. 1. 11
福井県教科用図書選定審議会	17	2	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	24. 5.14 24. 6. 1
福井県文化財保護審議会	15	3	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について 指定文化財の答申について	審議・諮問・協議・答申	24. 5. 28 24. 12. 7 25. 2. 25
福井県社会教育委員の会議	10	1	社会教育の今後の方向性について 社会教育団体の新たな取組みについて	協議	24. 12.17
福井県朝倉氏遺跡研究協議会	10	2	平成 24 年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成 24 年度事業実績について 平成 25 年度事業計画について	協議	24. 8. 30 25. 3. 8

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（平成 24 年度）

区分	専修免許状	1 種免許状	2 種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	3 3	1 2 3	1 9		3 5	2 1 0
中学校	4 4	1 0 5	6		1 2	1 6 7
高等学校	6 5	1 7 9			4 4	2 8 8
特別支援学校	7	2 7	2 9		7	7 0
幼稚園	2	5 8	1 2 8		3	1 9 1
養護教員	2	2 4	1		4	3 1
栄養教員		1	1			2
自立教科等						
合 計	1 5 3	5 1 7	1 8 4		1 0 5	9 5 9

(2) 文化財の指定状況

平成24年度においては、有形文化財（美術工芸品）5件、有形文化財（建造物）1件、名勝1件を新たに県指定文化財に指定しました。
また、3件が新たに国重要文化財に指定されました。

<指定文化財の現状>

平成25年4月1日現在

区分	国			県指定	計
	指定	選定・選択	登録		
国 宝	6				6
重要文化財	99				99
有形文化財			1	213	214
無形文化財	1			4	5
重要有形民俗文化財					
有形民俗文化財			1	9	10
重要無形民俗文化財	5				5
無形民俗文化財		10		60	70
特別史跡	1				1
史 跡	23			29	52
特別名勝	1				1
名 勝	12			5	17
特別天然記念物	4				4
天然記念物	16			32	48
特別名勝天然記念物					
名勝天然記念物	1				1
計	169	10	2	352	533
重要伝統的建造物群保存地区		2			2
選定保存技術		1			1
登録有形文化財 (建造物)			115		115
登録記念物			3		3

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおり行いました。

登録証交付 62 件
登録証再交付 8 件
所有者変更 254 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

34 法人（平成25年3月31日現在）

新制度移行法人（一般社団法人6 公益財団法人14 一般財団法人6）

旧制度法人（社団法人0 財団法人8）

5 公立高等学校入学者選抜学力検査（平成25年3月実施）結果の状況

平成25年3月7日、8日に実施した全日制・定時制の第1次の学力検査合格者4,489人に関する課程別・教科別の平均点は、表1のとおりです。

また、推薦入学、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表2のとおりです。

表1 課程別・教科別の平均点 ※（ ）内は前年度実績

教科	全 日 制	定 時 制
国 語	63.9 (69.4)	33.7 (37.5)
英 語	72.2 (62.5)	24.8 (17.6)
数 学	55.7 (52.8)	16.7 (13.5)
社 会	64.3 (59.9)	
理 科	61.4 (59.8)	
総 点	317.5 (304.5)	76.8 (67.4)

表2 課程別の合格者数

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	934(975)		934(975)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	95(114)		95(114)
1次学力検査によるもの	4,315(4,582)	174(180)	4,489(4,762)
2次学力検査によるもの	35(32)	69(56)	104(88)
計	5,379(5,703)	243(236)	5,622(5,939)

6 平成24年度実施 公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成24年7月14日(土) 一般教養・教職専門	福井県立高志高等学校 (福井市御幸2丁目25-8)
平成24年7月15日(日) 体育実技(体カテスト)	

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成24年8月6日(月) 適性検査、作文、専門教科等試験	福井県立高志高等学校 (福井市御幸2丁目25-8) 福井市成和中学校 (福井市城東3丁目10-1)
平成24年8月7日(火)、8日(水)、 9日(木)、10日(金) 面接(4日間のうち指定した1日) (個人面接、場面指導)	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

< 18年度から実施 >

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

< 19年度から実施 >

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・面接による評価のウエイトの拡大
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

< 23年度から実施 >

- ・スポーツ特別選考の実施

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・ 2次選考の不合格者に対して、成績を A、B、C の三段階で通知
- ・ 試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・ 個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
 - 1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数
- ・ 筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・ 1次選考合格者、最終合格者について、合否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・ 判定基準をホームページで事前発表
- ・ 解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・ 不合格者の希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

○ 選考過程の改善

< 20年度から実施 >

- ・ 改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・ 民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・ 実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

< 24年度から実施 >

- ・ 電子申請による受付

7 研修の実施状況

平成24年度の職員研修については次のとおりです。

区 分		研 修 名	研修期間
指 定 研 修	基本研修	初任者研修	1年(校外25日+校内180時間)
		幼稚園新採用教員研修	1年(園外10日+園内10日)
		5年経験者研修	1年(3日)
		10年経験者研修(幼稚園)	1年(園外4日+園内10日)
		10年経験者研修(小学校・中学校・県立学校)	1年(校外8日+校内15日)
	主任等研修	教育相談・生徒指導主事研修	1講座 1日
		養護教諭研修	1講座 1日
		理科実習助手研修	1講座 1日
		臨時任用講師研修	1講座 4日
		中堅教員研修	2講座 各5日
	管理職等研修	新任校長研修	1講座 4日
		新任教頭研修	1講座 5日
		経年管理職研修	2講座 各1日
	専 門 研 修	教科等に関する研修	幼稚園教育に関する研修
小学校の各教科に関する研修			28講座 各1日
中学校の各教科に関する研修			22講座 各1~2日
高校の各教科に関する研修			14講座 各1~2日
その他(校種を超えた研修)			7講座 各1日
教科以外の 課題等に関する研修		道徳教育	2講座 各2日
		学級経営	1講座 1日
		不登校対応	1講座 1日
		教育相談関係	6講座 各1日
		総合的な学習の時間	1講座 1日
		へき地複式教育	1講座 1日
		食育	1講座 1日
		人権教育	1講座 1日
		漢字教育(白川文字学)	1講座 2日
		N I E活動に関する研修	1講座 1日
		情報教育に関する研修	25講座 各1日
		保護者対応	1講座 1日
		教養研修	6講座 各1日
		マネジメントスキル	7講座 各1日
		教育法規	1講座 1日

8 福井大学教職大学院との連携の状況

高度な専門性と実践力を備えた教員の養成を目指して、平成19年に北陸地域で唯一設置された専門職大学院である福井大学の教職大学院と、さまざまな連携した取組みを行っています。

○現職教員を教職大学院の実務家教員として派遣

現場での実践経験の豊かな管理職教員（元中学校長1名、元中学校教頭1名（平成24年度））を教職大学院の教員として平成19年開学時から派遣しています。

○中核現職教員を教職大学院の「スクールリーダー養成コース」の学生として派遣

教職大学院では新人教員の養成と併せ、「スクールリーダー養成コース」を開設し、地域や学校において指導的役割を果たし得る教員養成を目指しており、このコースに県内小中学校、県立高校から13名（平成24年度）の中堅教員を学生として派遣しています。

○学校を拠点とした協働実践研究の実施

スクールリーダー養成コースに入学した現職教員は、勤務する学校において、学校が抱えるテーマや課題について、教職大学院の教員とともに協働研究を行っています。このような学校を拠点として実践的な研究を行うシステムにより、現職教員が学校で勤務を続けながら自校の課題について学校ぐるみで取り組むことが可能となっています。

○「新任教頭研修」と「教員免許更新講習」の協働実施

教育委員会が行う新任教頭研修と福井大学の教員免許更新講習との連携により、研修効果を高めています。これは、教員免許更新講習のグループ討議でのファシリテーター（調整・進行者）役に新任教頭を起用するものであり、新任教頭研修の一環として23年度から実施しています。これにより、教職員評価システムにおいて、新たに評価者となる新任教頭のコーチング技術等の向上を図ります。

○「ミドルステップアップ研修」の協働企画・実施

教育委員会が行うミドルリーダー養成研修について、平成24年度から教職大学院と協働で企画・実施しています。これまでの座学中心の研修から、1年間にわたり勤務校での実践研究を中心とするものに変更し、授業研究の在り方等を改善していく研修としています。

V 平成24年度の教育関係施策の取組実績

1 基本的方向

福井県教育委員会では、おおむね10年先を見通した教育のめざすべき姿と、平成23年度から平成27年度までの5年間に取り組むべき施策の方向性をまとめた「福井県教育振興基本計画」を策定しました。（平成23年9月）

計画では、「夢と希望に向かって、豊かな心でたくましく生きる力を育む教育県・福井」の基本理念に基づき、6つの基本目標を掲げており、目標達成に向けて計画の推進に取り組みました。

2 実施結果の概要

基本目標1 生きる力につながる確かな学力の育成

1 確かな学力の育成

①知識・技能の確実な習得と活用力の育成

■「学力向上センター」を核とした小・中学校の授業の改善

4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果から本県の児童・生徒の課題について分析を行い、教材「Good 授業ナビ」を作成し、各学校においては、特に課題がある内容について授業の中で取り上げるなど、授業改善のために活用しました。

また、12月に実施した県学力調査の結果を受けて、指導のポイントと補助教材をセットにした課題克服教材集を全教科で作成し、授業の中や家庭学習として使用するなど、弱点克服のために活用しました。

■高校生学力向上委員会等による教科指導の改善

全県立高校生を対象に生徒の授業・学習状況調査を実施し、授業理解度の低い教科・科目については、各学校で授業力の高い教員等が授業を参観して、教員にアドバイスするなど、授業改善に取り組みました。

■新聞を活用した教育の推進による情報活用力やコミュニケーション能力等の育成

7月30日・31日に本県において第17回NIE全国大会福井大会が開催され、県内外の教育関係者および新聞関係者約1,800人が公開授業や実践発表会、講演会等に参加しました。

12月14日に「新聞を活用した教育研修会」を実施し、県内全ての小・中学校から教員約280名が秋田大学の阿部昇氏による講演会と県内のNIE実践教員によるワークショップに参加しました。

その結果、国語や社会など特定の教科だけでなく、他教科や朝の会、帰りの会など、学校の教育活動全体で新聞を活用する取組みが広がりました。

②少人数教育によるきめ細かな指導の推進

■本県独自の少人数教育の充実

本県独自の学級編制基準を継続しながら、昨年度の小学校1学年の35人学級に続いて今年度は小学校2年生の35人学級を実施しました。

また、今年度から発達障害等のある児童・生徒のために特別支援非常勤講師を配置し支援体制を充実させました。中学校での習熟の差の大きい数学と英語で習熟度別指導のための教員を14名配置しました。

平成25年度以降もこれまでの少人数学級編制等を継続するとともに、発達障害等のある児童・生徒の支援体制や中学校での習熟度別指導の充実を図ることとしました。

③教員の指導力向上

■教員同士の学び合いの促進

全学校での校内研修を推進するために、校種別に「学校全体の教育力向上に関する指針」を策定して全教員に配付し、説明会を実施しました。県立高校では、学校の垣根を越えた公開授業、授業研究会を58回実施したほか、今年度から中学と高校の教員が、互いの授業を参観し、研究会に参加して、中高の接続を意識して授業改善に努めました。

また、基本研修（初任者、5年・10年経験者）において、同世代の研修だけでなく、世代や校種を越えた小グループでの実践発表（クロスセッション）を導入し教員同士の学び合いの気風の醸成を促進しました。

■大学や企業等との連携による指導力の向上

校内研修の指針を大学との連携で策定したほか、ミドルリーダー養成研修を、大学との協働企画・協働実施による年間を通じた校内での実践をサポートする形式とし、教職大学院スクールリーダーコースの冬季集中講座との合同実施も実現し、互いの実践を交流して指導力向上に努めました。

また、県立高校職業学科担当教員を夏季休業中に県内企業に派遣し、専門知識や技術等を習得させました。

■教育研究所による教員支援の強化

ミドルリーダー養成研修では、教育研究所員が受講生の学校改革や授業改革をサポートするために学校訪問したり、ICT活用による授業改善のための学校訪問等、訪問研修を増加して教員支援を強化しました。

また、「教育情報フォーラム」に優れた指導プランを約3,500本掲載し、授業改善に役立てました。

④理科・数学教育の充実

■サイエンスの基礎学力の定着

サイエンス教育を広げるため中・高校生を対象に開催している「ふくい理数グランプリ」の参加者が628名（前年度566名）に、高校生の全国科学オリンピック等への参加者も196名（前年度134名）にそれぞれ増加しました。また、全国物理コンテスト第2チャレンジへ2名、日本情報オリンピック本選へ1名が進出しました。

「スーパーサイエンスクラブ」を金津高校、敦賀高校、美方高校に加え3校（羽水高校、大野高校、福井農林高校）指定したほか、「スーパーサイエンスハイスクール」については、基礎枠として高志高校、武生高校の2校、科学技術系人材育成重点枠として藤島高校、武生高校の2校が文部科学省から指定されました。

75小学校135学級に理科の観察や実験を補助する理科支援員を配置し、授業内容を充実させるとともに、子どもの科学への関心を高めました。また、全小中学校において、発展的な実験や自由研究を支援する「夏休み理科実験応援プロジェクト」を実施し、子どもたちの科学の芽を育てました。

小学校教員に、理科の実験指導を苦手とする割合が高いことから、単元を通じた授業づくりと効率的な観察・実験についての指導書「観察・実験レシピ集」を作成し、この指導書を活用した、小学校教員対象の研修会を実施しました。

■大学・企業の参加によるサイエンスの応用力・実践力の向上

高校生の科学に対する知的好奇心を高めるため、東京工業大学フロンティア研究機構の細野秀雄氏を招き、県内高校生約300名を対象に「ふくいサイエンスフェスタ2012」を開催しました。また、福井大学や県児童科学館と連携し、高校生科学部部員対象の春季・夏季サイエンス研修会を開催しました。

■地域とともに伸ばす子どもたちの「科学の芽」

小・中学生を対象に科学実験などを行うサイエンス博士を学校や地域に134回派遣し、子どもたちが科学に慣れ親しむ環境づくりを進めました。

⑤国際人を育成する英語教育の充実

■語学音声教育の推進による実践的なコミュニケーション能力の育成

外国語指導助手（ALT）の活用推進や英語教員の指導力向上に向けた施策の検討のため、外部専門家等からなる「英語教育推進委員会」を設置し、本県の英語教育の在り方を検討しました。

昼休みなどの授業外に高校生が継続的に英語に触れる「イングリッシュ・シャワー」を全ての県立高校で実施するとともに、ALTを活用して就職内定者を対象に「社会人としてのビジネスコミュニケーション講座」を12校で開催しました。また、NHKエデュケーショナル等と協働で、英語による発展的コミュニケーション力を育成するための福井を題材にしたオリジナル教材を作成しました。

高校生101人を米国カリフォルニア州に派遣して、英語コミュニケーション能力を向上させる海外語学研修を行うとともに、英語指導改善拠点校を中心に、県内の英語教員12名を米国ラトガース大学に派遣し、指導力向上のための研修を実施しました。

中学生の「聞く」「話す」能力を高めるために、NHK英語教材の効果的な活用の研究をモデル校10校において実施しました。

■小学校段階からの外国語活動の推進

8月7日に小学校5・6年生の学級担任224名を対象にした研修会を開催し、教員の指導力向上を図りました。また、教育研究所の「教育情報フォーラム」に、学習指導案等を掲載しました。

⑥情報教育の充実

■子どもたちの情報活用能力と情報モラルの育成

サイバー犯罪の危険性や対策等についての専門知識を有する警察官21人を「サイバー犯罪アドバイザー」として育成するとともに、高校生向けにサイバー犯罪の危険性や対策を紹介したパンフレット「巻き込まれない、だまされない！！サイバー犯罪対策」を作成し、子ども、保護者および教員に対し広報・啓発活動を実施しました。

小・中学校では、子どもたちに携帯電話のインターネットサイトを通じて巻き込まれるトラブルの危険性や予防法を紹介するとともに、保護者が子どもに携帯電話を持たせることの是非を判断する材料とするために、「親子で読む携帯電話問題対策パンフレット」を作成しました。

高校では、教科「情報」において、生徒の情報活用能力や情報モラルを育成するための指導や活動を実施しました。

■教員の情報教育指導力の育成

教育研究所が行っている情報教育に関する研修講座を25回（前年度比1.04倍）、訪問研修を70回（前年度比1.94倍）実施し、1,130名がICTの活用に関する指導力を高めました。

また、県立高校ではICTを活用した授業研究会を5回開催し、学校を越えた授業改善に向けての研究を推進しました。

⑦白川文字学による独自の漢字学習の推進

■白川文字学を活用した漢字学習の確立と定着

全ての小学校で、独自のカリキュラムによる「白川文字学」を活用した漢字学習を実施しました。また、県内7ブロックに設置した漢字教育推進校（8校）では、各支部小学校教育研究会国語部会と連携して漢字教育の在り方に関する研究を進めるとともに、域内の小学校教員が参加する公開授業や研究会を計72回開催し、「白川文字学」を活かした漢字学習の指導力の向上を図りました。

■漢字学・白川文字学を学ぶ人材の育成

立命館大学との連携による「福井県漢字学指導者養成講座」では、県内教員を中心とする36名が修了しました。今後は、各地域において漢字教育アドバイザーとして漢字教育を推進することとしました。

幅広い世代を対象にした「白川文字学」の漢字講座やパネル展等には、大人から子どもまで3,600人を超える参加がありました。

2 地域産業を担う人材の育成

① キャリア教育の充実

■ 将来の夢や希望を伸ばし育てる教育を推進

11月10日に東京スカイツリーの照明などをプロジェクトした照明デザイナー戸恒浩人氏を招いて、「夢や希望を育てる講演会」を実施し、県内中学生や保護者、教育関係者約500名が参加しました。

学校関係者や大学関係者の協力を得て作成した小学校版・中学校版「私の夢カルテ」を、4月に県下全ての公立小学校4年生、中学校1年生に配布しました。また、10月28日に実施したキャリア教育研修会において、効果的な活用を図るため、活用の手引を使った説明会を開催しました。

■ 職業体験を軸としたキャリア教育の充実

県内全ての市町において、小学校では地域のテレビ局・新聞社・消防署などでの職場見学を実施し、また、中学校では商店・工場などでの職場体験活動を実施しました。

② 高等学校での職業教育の推進

■ 職業系高校生の資格取得の応援

職業系高校において、企業の技術者等の外部指導者延べ15名を学校に招き、資格取得に向けた事前実習、事前講習を36回実施しました。

■ 地域の産業のための人材育成

社会のニーズや技術の進展に対応するために、企業関係者をアドバイザーとして学校に招き、授業やカリキュラムの改善や補助教材の開発等を行うほか、生徒の長期企業研修（10日間）や企業技術者を学校に招いての実習指導を行いました。

■ 職業人としてのモラルと態度の育成

就職内定者1,400人を対象とした「高校生内定者ビジネススキルアップセミナー」を12月に開催し、職業人としての心がまえや職場におけるビジネスマナー、コミュニケーションスキル等の研修を行いました。

3 幼児教育の推進

①幼児教育の推進

■幼児教育センター（仮称）による幼児教育の推進

保育所・幼稚園・小学校や家庭と連携し、基本的な生活習慣や規範意識などを学ぶ幼児教育の意義を明らかにするため、10月に「幼児教育支援プログラム」を策定し、この支援拠点として11月20日に「福井県幼児教育支援センター」を開設しました。

センターの開設に伴い、保育所や幼稚園の活動状況等が広く周知できるように、ホームページの中に研修や出前講座等の開催状況を掲載するとともに、自由に意見交換ができるようツイッターやフェイスブックを開設しました。

■地域や家庭と一体となった幼児教育の質の向上

家庭教育支援チームおよび市町教育委員会家庭教育担当者対象のネットワーク研修会を2回実施しました。家庭教育支援者として活動できる人材の養成およびそのスキルアップのための「子育てサポーターステップアップ研修講座」を、2会場で各8講座開催しました。

また、5月から10月まで、家庭教育支援テレビ番組「ぶらり子育てしゃべり隊」を放送し、家庭教育電話相談「すこやかダイヤル」を週3日（年間141日）開設しました。

三世代に広く親しまれてきた本県出身の絵本作家 加古里子氏の絵本を保育所・幼稚園や図書館などに広く普及するため「加古里子絵本セレクション30」を作成しました。

また、保育所・幼稚園での幼児教育の一層の向上を図るため、幼児教育相談員による巡回訪問（103回）を実施したほか、幼児の保護者を対象に出前家庭教育講座を開催し、家庭教育の重要性を再認識していただきました。

4 特別支援教育の推進

①特別支援学校の適正配置と機能の充実

■特別支援学校の環境の充実

奥越特別支援学校を開設し、県内の特別支援学校で初となる食品加工室を使用したパン等の食品製造や販売の学習をカリキュラムに設けるなど、25年4月の開校に向けた準備を行いました。

■障害に対応した機器整備と活用能力の育成

障害の種類や程度により、コミュニケーションの困難な児童・生徒に対して、タブレット型パソコン等を活用することにより意思表示する環境を整えました。その他、肢体不自由児へのVOCA（音声合成）や視覚障害児の点字プリンター等の機器を各教科、自立活動の授業の中で活用しました。

■高等学校段階の教育の充実

特別支援学校に5人の就職支援指導員（坂井奥越1名、福井2名、丹南1名、嶺南1名）を配置し、企業等への職場開拓等を行いました。（高等部卒業生の就職率 32.9%）

■特別支援学校の教員の専門性の向上

免許法認定講習を4講座（専門講座（知的障害、肢体不自由、病弱各1）、共通講座1）開催しました。スクールカウンセラー、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）およびST（言語聴覚士）等の外部専門家31名による巡回指導や事例検討会議・校内研修を111回実施し、教員の専門性の向上を図りました。

また、各学校で授業改善等テーマを決めて実践研究に取り組み成果をあげました。

②一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実

■発達段階に応じた関係機関との連携強化

保育カウンセラー等との連携のもと、特別支援教育センター・嶺南教育事務所と各特別支援学校において、特別な教育的支援が必要な幼児・児童・生徒に対する巡回相談（2,949件、19,227回）を行いました。

また、特別支援教育センター・嶺南教育事務所にタッチパネル式パソコンを配備し、学習障害等のある児童・生徒に対するICT機器による学習支援・指導を行う他、学習面でつまづきのある児童・生徒への支援・指導事例集を作成し、県内の幼稚園・小・中・高校に配付しました。

■小・中学校等における支援の充実

発達障害や特別な支援が必要な児童生徒に対して、就学前から就労までの一貫した指導・支援を継続するため、4月に福祉や労働部門との連携による発達障害児教育推進チームを立ち上げました。県内4地区で指導・支援の実践を行いながら、「特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援事例集」、「移行支援ガイドライン」および5歳児の保護者向けの理解のためのリーフレット「子どもたち一人ひとりの笑顔のために」を発行しました。

また、11月には小・中・高校に「特別な教育的支援や配慮を要する児童・生徒の現状調査」を実施しました。

今年度から特別支援非常勤講師を31名配置を行うなど、発達障害等のある児童・生徒を支援する体制の充実を図りました。

基本目標 2 豊かな心と健やかな体の育成

1 豊かな心の育成

①道徳教育の充実

■独自教材による道徳教育の充実

夢や目標をもち何事にも挑戦しようとするたくましい子どもを育てるため、福井県ゆかりの人物等を題材に取り入れた「福井県版心のノート」を作成し小1・小3・小5・中1の児童・生徒に配布するとともに、活用資料集も全小中学校へ配布しました。

■保護者・地域参加型の道徳授業

県内3地域9小学校で、「親子で学ぶ道徳講座」を実施し、保護者や地域の人たちとともに道徳学習を実施しました。

■子どもと地域を「ことばで結ぶ」絆づくり運動

地域でのあいさつなどを通してお互いのつながりを深めるための活動を、中学校区ごとに小中学校が連携して取り組みました。

■道徳的実践の場としての体験活動・奉仕活動の充実

清掃ボランティアなど社会福祉に関わる体験活動を183校の小学校と68校の中学校が実施しました。

また、青年の家等において登山やいかだ作りなど仲間と励まし合い、達成感を味わいながら規範意識や思いやりを育む体験活動を実施しました。

②人権教育の充実

■計画的・組織的な人権教育の推進

全小・中学校の各教科、道徳、特別活動、総合的な学習時間などで、人権教育年間指導計画を見直し、それに基づき人権教育を進めました。

県内を3つの地域に分けて、全ての小・中・高校および特別支援学校の人権教育担当者を対象とした研修会を開催しました。

■指導者の育成と資質の向上

各事業所等の指導的立場の人を対象とした指導者研修会において、同和問題を中心に長年人権に関する研究実践に取り組まれている講師による講演と体験的参加型学習を行いました。また、各市町社会教育指導員等を対象にファシリテーター養成研修を実施し、各市町での参加型学習の実践につなげました。

指導方法の向上と地域を巻き込んだ人権教育を進めるため、池田小学校を人権教育研究校に、三方中学校区を人権教育推進地域に指定し、人権教育のあり方や様々な人権問題について指導方法や保護者・地域への啓発のあり方などについて研究を深めました。

■人権教育の指導内容および指導方法の工夫・改善

公民館職員および生涯学習関係職員を対象に、人権教育におけるワークショップ（体験的参加型学習）の進め方についての研修会を開催しました。また、各市町で実践されたワークショップをまとめた実践集を作成・配布しました。

③豊かな体験活動の推進

■学校における多様な体験活動の推進

小学校では197校が自然に親しむ体験活動を、151校が職場見学活動を実施したほか、農業体験や漁業体験などの多様な活動を実施しました。また、全ての中学校では職場体験活動を実施しました。

各施設における1泊2日から4泊5日のモデルプログラムをはじめとして、里地里山体験プログラム、地域資源を活かした体験活動メニューなどを掲載した体験活動プログラム集を作成し、県内全域の小中学校に対し、集団宿泊学習等での活用を働きかけました。

■時代のニーズに対応した新たな体験学習の構築

不登校生徒の夢や希望、社会性を育むため、奥越高原青少年自然の家において2泊3日の集団宿泊および自然体験活動を行いました。また、3月に中学生に贈る講演会を開催し、新年度から学校復帰ができるよう、不登校生徒（保護者も含む）に対して、自立への支援活動を行いました。

また、子ども会と連携して、ジュニアリーダー研修会（青年の家等を活用）を開催しました。

■青少年教育施設の機能の充実

体験活動のさらなる拡充を図るため、地域資源を活かした体験メニューや教科学習への活用方法、里地里山体験学習を組み入れたプログラム集を作成しました。

■農業体験活動を通じた食農教育の推進

245の小・中学校において、JA等の指導による米づくり体験、学校給食用の畑を使った農家と子どもたちによる畑作体験、体験圃場を確保できない市街地の児童・生徒を対象とした農産物加工体験などの農業体験活動を実施しました。また、45の小・中学校において、味覚の授業を実施しました。

■伝統的地場産業に関する学習体験の拡充

小・中学生が「伝統的工芸品」を身近に感じられるよう、漆器や和紙などの6産地組合において体験学習会を実施しました。

④環境教育の推進

■体系的な環境教育の推進

身の回りの生きものに関心を持ち、学校の周りの生きもの調査学習を進める「いきものひやくようばこ」の取組みを行いました。

自然環境保全についての意識を高め、環境教育の指導力向上を図るため、教育研究所にて、教員対象の「理科におけるエネルギー環境教育」研修講座を2回実施しました。

■体験を重視した環境学習の充実

県内90%の小・中学校で「エコワークブック」を活用した授業を進め、野外観察等の体験学習を行いました。

また、環境エネルギー教育の充実のために「環境アドバイザー」を20回学校に派遣しました。

さらに、昨年作成した放射線に関する県指導資料を基に、小学校教員に対する研修を実施しました。

文部科学省が作成した「放射線等に関する副読本」を全県立学校の生徒および教員に配布し、理科の授業や集会等で放射線に関する教育を充実しました。

■ユネスコスクール参加校の拡大

県ではじめて小学校1校がユネスコスクールへの加盟申請を行いました。また、勝山市の全小中学校12校の加盟に向け準備を進めました。

⑤ふるさと教育の推進

■学校教育の中での「ふるさと福井」の理解の促進

こども歴史文化館の常設展示として、新たに石塚左玄（食育）、中野希望（フェンシング）、畑和也（西洋料理）などスポーツや料理の分野の人物を追加しました。また、美浜町やおおい町の小学校へ出向き、白川静博士をテーマとした出前講座を実施しました。

■「元気ふくいっ子ふるさと貢献プロジェクト」の推進

海の自然環境を体感することにより、環境保全意識を醸成し豊かな感性が育めるよう、1,079人（64学級）の小・中学生を対象に、里海での船乗り体験を実施しました。

■地域資源の活用によるふるさと教育の推進

県立青少年体験活動施設において、自然や産業など地域資源を活用した体験活動プログラム集を作成しました。

■伝統行事等への参加促進

福井の文化や担い手を育成するため、次代を担う子どもたちが県内の文化活動団体とともに地域の伝統文化や優れた芸術文化活動に参加し、身近な地域で芸術文化活動に参加できる「子ども文化塾」などを開催しました。

（一級の芸術・文化を体験した子どもの数 71,637人）

■先人に学ぶ機会の提供

こども歴史文化館において、佐々木長淳・忠次郎父子や石塚左玄など先人の紹介パネルを追加しました。また、松旭齋天一について夏休み企画や特集展示として、日本最古の手品・ベルギー講演の写真など貴重資料を公開しました。

■こども歴史文化館の充実

展示を楽しみながら理解する新たな仕組みとして、「サイロタイムトラベラー」を導入しました。また、科学おもちゃ教室等のイベント（延べ171回）、JAXA宇宙学校を開催しました。

⑥読書活動の推進

■家庭における読書活動の推進

県立図書館において、保護者向けのパンフレット「おうちでえほん！～絵本で子育てを楽しく～」を発行し、家庭での読み聞かせの大切さを伝えることと乳幼児向け絵本の紹介をしました。

児童・幼児の学校活動や家庭での読み聞かせなどに活用を広げるため、前年度に選定した本県出身の絵本作家・加古里子氏が推奨する福井の子どもたちに読ませたい本3分野計90冊を、幼児教育支援センターの巡回指導の際などに広く紹介しました。

高校生の読書意欲の喚起を図るため、県立高校25校で推薦図書や必読書を示して読書活動を推進しました。

■地域における読書活動の推進

県立図書館において、地域で活動している読書ボランティア等を対象とした「読み聞かせ相談会」を実施し、読書活動推進担い手のレベルアップに寄与しました。

※開催回数10回 参加人数77人

■学校での読書活動の推進

県立図書館所蔵資料の学校への貸出を積極的に行い、学校への直接的支援を行いました。

※貸出件数87件 貸出冊数5,273冊

■読書活動を支える環境整備と人材の育成

図書の貸し出しや各種研修講座を通じて、読書活動推進の拠点となる各市町図書館への支援を積極的に行いました。

※県立図書館から市町立図書館への貸出 19,321冊

※市町立図書館向けの研修講座を7回開催

（うち4回は学校図書館関係者へ受講対象を拡大）

2 健やかな体の育成

①体力・運動能力の向上

■児童生徒の体力の維持向上

全ての公立小・中学校、高校で、「体力向上推進計画」を作成し、体育の授業や業間運動で取り組みました。課題としてきた握力については、「グー・パー体操」やうんてい・のぼり綱を活用した取組みを実施した結果、小学校5年生および中学2年生の平均記録が0.185kg上昇しました。

■運動部活動の充実

運動部活動の顧問が部を運営する際の指針となる「運動部活動の手引き」の作成に着手しました。また、運動部活動の指導の在り方に関する講習会を実施しました。

②健康教育の推進

■学校保健活動の強化

全ての学校で学校保健計画を策定し、保健主事・養護教諭を対象に、学校保健計画の作成や学校保健委員会の運営方法に関する研修会を、2回開催しました。

■子どもたちの目と歯の健康の増進

正しい歯みがき習慣の定着を図るために、全ての公立小学校で1・2年生対象の歯みがき教室を開催しました。目の健康を守るために、小中学校で目のリフレッシュタイムの設定と「目の健康を守る3か条」を教室に掲示し、普及啓発を図りました。

■薬物乱用防止教育の推進

青少年の薬物使用の実態と対応について理解を深めるために、教職員や薬剤師を対象とした薬物乱用防止教室を開催しました。

③食育の推進

■栄養教諭を中心とした学校での食育の推進

栄養教諭の指導のもと、県内2地域の児童がお互いの特産物や郷土料理を紹介したり、食材・食文化について学ぶ交流学習を行いました。また、県内4ブロックで栄養教諭による授業力向上のための研究会を実施しました。

■「おいしい地場産給食」の実現

子どもたちから好評を得たメニューを学校給食調理員が相互に紹介し合う「調理従事者研修会」や、ふるさと知事ネットワーク参加8県が交換した郷土料理のレシピによる学校給食を実施するとともに、児童生徒と学校栄養士が共同で開発したオリジナルメニューを発表し合う「学校給食調理コンテスト」を実施し、地場産農水産物を活用した多彩な献立情報を交換しました。

■食育推進に向けた家庭・地域への啓発

1月に食育実践発表会・学校給食展を開催しました。県内地域の特産物や郷土料理を紹介したり、栄養教諭による地場産物を活用した学校給食レシピや学校給食調理コンテストの様子を展示するなど食育の取組みを紹介しました。給食展に合わせ、県庁食堂で地域の方に学校給食を味わう機会を設けました。

3 生徒指導・教育相談体制の充実

①不登校対策の充実

■未然防止に重点を置いた福井型不登校対策の推進

小中学校が連携して組織的な不登校対策を進めるため、全ての小中学校の教頭を対象とする不登校対策研修会を年2回開催し、また、不登校対策取組み事例集の活用を進めました。

(不登校者数：小学校107名、中学校536名)

■スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの効果的な配置

小学校45校と全中学校74校にスクールカウンセラーを配置しました。

17市町がすべてカバーできるようにスクールソーシャルワーカーを配置するとともに、スーパーバイザーの積極的活用により、効果的な訪問活動を進めました。

■保幼小・小中・中高連携の推進

保育所・幼稚園と小学校の円滑な接続を推進するため、福井県スタート・アプローチャリキュラム指針を作成し、地域の実情に対応した具体のカリキュラムづくりのため、県内5小学校区をモデル校に指定し、実証を開始しました。

モデル校区内の保育士・幼稚園・小学校教諭の理解を深め、目標等の共有を進めるため、保幼小連携講座を開催しました。

さらに、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭や家庭の保護者等を対象に、幼児教育力向上のための講座を18回開催しました。(延べ408人参加)

嶺南地域での研修機会を増やし、利便性を向上させるため、月1回程度、嶺南デーを設けました。

②生徒指導・教育相談体制の充実

■問題行動の未然防止

インターネット上の有害環境に関する最新情報を、小・中・高校の保護者等へ配信し、家庭内でのネット教育を支援し、青少年の非行や被害を防止しました。

9月に「いじめ問題対応の手引き」を改訂し、学校においていじめ対策委員会を開催していじめの未然防止を図るとともに、いじめ対応サポート班により素早い対応が進む体制づくりを進めました。

■教育相談体制の充実と関係機関との連携強化

全小・中学校において、いじめアンケートや生活状況アンケート等を活用しながら、教育相談週間などに担任等と面談する機会を設け、児童生徒の悩みを把握し解消しました。

基本目標 3 信頼される学校づくりの推進

1 学校マネジメント改革の推進

① スクールプランの達成と教職員評価システムの構築

■ スクールプランの充実

前年度の学校の自己評価、学校関係者評価に基づいて検証した結果を、新年度のスクールプランの改善に生かし、引き続きホームページでの公表を行いました。

風通しのよい活力ある学校づくりを進めるため、教職員評価システムの面談の中で、校長が教員にスクールプランの内容・意義を直接説明し、達成に向けて意識を共有しました。

■ 教職員評価システムによる活力ある学校づくり

評価者である管理職がコーチングや公正な評価の技術の力量を高めるため、評価者研修会を2会場で実施しました。

■ 教職員がやりがいを持って児童生徒と向き合える環境づくり（教職員の多忙解消）

学識経験者や教員、PTA、職員団体等の代表者からなる「活力ある学校づくり活動検討会」を2回開催し、勤務の負担軽減について検討を重ねました。各学校で実施している「1学校1改善活動」の取組み状況を調査し活動を促進するほか、「教育情報フォーラム」に掲載している優れた指導プランを約3,500本と大幅に増やし、個々の教員の負担軽減を図りました。また、これまで採用後1年目で実施していた初任者研修を平成25年度からは採用後3年間で行うこととし、より効果的・効率的な研修に変更しました。

各県立学校のICT環境について、クラウドコンピューティングを活用し、教職員の業務効率化や負担軽減を図る情報ネットワークを整備しました。

小・中学校事務共同実施に関しては、学校事務共同実施連絡会議を2回、グループリーダー研修会を1回開催し、県内の各市町の取組みについて情報を交換するなどして、学年会計処理ソフトの開発や児童生徒名簿様式の統一などによる教員の事務負担を軽減しました。

■ 教職員の心身の健康保持

健康診断・人間ドックの受診促進と相談事業の実施により、教職員の身体・メンタル両面の健康保持のための取組みを行いました。

また、管理職教職員研修を2回に分けて実施するとともに、本年度初めて40歳の一般教職員を対象とした研修を県内4箇所で開催し、165名の参加があり、健康管理やメンタル面の職場における協力体制作りを一層推進しました。

② 部活動改革の推進

■ 運動部活動ガイドラインの策定

運動部活動の顧問が部を運営する際の指針となる「運動部活動の手引き」の作成に向けて中体連高体連と協議しました。また、運動部活動の指導の在り方に関する講習会を実施しました。

■ 複数校での合同部活動や拠点校方式の導入

全ての競技で大会への複数校の合同チームが出場できるように中体連参加規定の見直しを行い、4競技16校11部で合同部活動を実施しました。

■ 運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携促進

総合型地域スポーツクラブが14市町で24クラブが設置され、運動部活動の指導者にとの連携が進んでおり、クラブへの中・高校生の参加やクラブの指導者が部活動の指導を行いました。

■ 地域における文化部活動の発表の支援

子どもたちが一流のステージで発表する機会を提供する「ワークショップフェスティバル」などを開催しました。（一級の芸術・文化を体験した子どもの数 71,637人）

③学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

■コミュニティスクールの機能向上

県内全ての小・中学校に設置されている「地域・学校協議会」を核として、地域人材を活用した学校ボランティアの導入や、学校開放や授業公開等の開かれた学校づくりを進めました。

■中学校区内での総合的な学校応援体制の整備

県内全ての中学校区において、「学習指導」「生徒指導」「地域連携」を柱とした児童生徒の交流や教員研修などを実施し、小中連携の取組みを始めました。

■オープンネットワーク教育の推進

9月に若狭高校と福井県立大学海洋生物資源学部との間で高大連携協定を締結しました。また、若狭高校にて福井県立大学教授による出張授業を実施しました。

小学校で理科を教える教員向けの実験指導書を作成する際に、県農業試験場や福井地方気象台の職員から助言を受けました。また、今年から福井地方気象台と連携した専門性の高い理科授業を、順化小学校、木田小学校、越廼中学校で実施しました。

■家庭等への情報発信の推進

インターネット上の有害環境に関する最新情報を、小・中・高校の保護者等へ配信し、家庭内でのネット教育を支援し、青少年の非行や被害の防止に努めました。

高校においては、学校独自の連絡体制に加え、安全環境部や警察本部が配信する情報について、対応を可能とするよう連携を図りました。

小・中学校においては、10月から運用を開始した「算数Webシステム」の中に、保護者・児童向けに、課題となっている内容についてのワンポイントアドバイスを配信しました。また、児童の算数に対する興味や関心を喚起するためのハイレベルな問題を定期的に掲載しました。

④小規模校での教育の振興

■学校間・学校種間のネットワークの強化

小規模校の教育環境の充実を図るため、福井市（国見小・長橋小・殿下小）および敦賀市（常宮小・西浦小・東浦小・赤崎小）において合同授業をそれぞれ6回実施しました。

■少人数学習集団の特長を活かした授業方法等の研究や研修の充実

嶺南教育事務所において、へき地複式教育研修講座を開講し、複式授業の在り方と複式の授業づくりのポイントについて実践発表などを行いました。

⑤小・中学校の統廃合への適切な対応

■資格小・中学校の統廃合のための支援策の充実

大野市富田小学校と小浜市内外海小学校に、複式学級を単式学級に統合する際に生ずる未学習を解消するため、非常勤講師を1名ずつ配置しました。

■空き校舎活用への支援

市町に対し、ホームページ等を通じた空き校舎の活用事例等の情報提供や、空き校舎利活用のための支援制度を周知し、旧日引小学校の改修等への支援を行いました。

2 県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり

①県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり

■学校再編による教育環境の充実

若狭地区については、若狭高校および若狭東高校において、平成25年度の開校に向けた準備を着実に進めました。

坂井地区については、坂井総合産業高校（仮称）の平成26年度の開校に向け、地元企業や研究機関等の意見（31社訪問）を踏まえた新たな職業教育の検討を行い、必要な施設・設備の整備等を含めた全体計画を策定しました。

若狭、坂井地区以外の地区の再編については、生徒数の動向等を踏まえて慎重に検討を進めるとともに、高校教育改革の一環として、多様な教育機会の創出に向け、平成27年4月に、高志高校に附属中学校を開設する中高一貫教育校（併設型）の設置方針をとりまとめました。

■普通科系高等学校における進学指導の向上

生徒の能力や個性に応じて、持てる学力等を最も効果的に伸ばす多様な教育を選択できる制度として、併設型中高一貫教育を平成27年4月に高志高校に導入することを決定しました。

難関大学への進学を志望する高校1年生を対象に土曜チャレンジセミナー、2年生を対象に土曜チャレンジセミナーおよび春期セミナー、3年生を対象に入試直前冬期セミナーを開催しました。

■魅力ある職業教育の推進

職業系高校において、地元企業の代表者等から授業に対する助言をいただくなど、産業界の意見を授業やカリキュラムに反映させたほか、民間の技術者による技術指導や企業の生産現場における実習など、地域産業界と連携した職業教育の充実を図りました。

■定時制・通信制教育の充実

3年間での卒業を可能とするため、単位制の特性を生かして学びやすい教育課程を編成しました。また、多様な課題を抱える生徒たちに対応するため、スクールカウンセラー3名、スクールソーシャルワーカー2名を配置するとともに、5校に配置している非常勤の養護教諭の勤務時間を、生徒が登校している時間まで（18時から20時へ）延長しました。

3 私学教育の振興と支援の充実

①特色ある私学教育の振興

■魅力ある学校づくりや特色ある教育活動等への支援

県内私立高校が生徒や保護者にとって魅力ある学校となるよう、食育・環境教育といった教育の質の向上を図る取組みや特色ある学校づくり、部活動の全国での活躍など、意欲的な取組みを支援しました。

■保護者の負担の軽減

授業料と国の就学支援金の差額に対し私立高校が減免を行った場合、世帯の所得に応じて、全額～1/3の割合で助成を行いました。また、国の就学支援金の対象外である実験・実習費等に対して引き続き助成を行いました。

■教育環境の充実

耐震化が早期に実施されるよう、幼稚園や高校の耐震補強工事や改築工事に対し、県独自に助成を行いました。また天井材や壁材等の非構造部材の補強工事にも引き続き助成を行いました。

■公私共通の諸課題に対する対応

県公立高等学校連絡協議会の開催（10月）および昨年度私学側から要望のあった「公立高校の募集定員問題に関する協議会」の設置について、6月に公私協の下に小委員会を設け、公私の中長期的な定員設定のあり方等、3回にわたって協議を行いました。

■私立学校における経営の健全化の確保

私立小・中・高校・専修学校の教育条件の維持向上、経営の健全化を図るため、各種の教育振興補助金により、各学校の人件費等、経常的経費等を支援しました。

4 安全・安心な学校づくり

①学校施設の耐震化の推進

■学校施設の耐震化の優先実施

小・中学校施設については、県独自の補助制度により、市町の負担軽減を図り、耐震化を促進し、耐震化率は81.8%から84.7%に向上しました。県立学校については、10棟の耐震補強工事を行い、耐震化率は87.2%から90.1%に向上しました。

②安全対策の充実

■学校安全体制の整備

県内全ての学校で「学校安全計画」を策定し、計画に基づいた安全点検や安全教育を県警と連携して実施しました。

■安全教育の充実

小・中・高校・特別支援学校において、より実践的な防災教育が実施できるよう各学校の管理職や安全教育担当者352人を対象に防災教室講習会を7月に開催しました。

■地域の防犯団体等との連携の促進

全ての中学校区において青色灯を付けた自動車による学校周辺や通学路等の巡回指導を実施し、見守り活動の充実に努めました。

■安全で明るい通学路の整備

児童生徒の下校時の安全を確保するため、通学路に477灯の防犯灯を整備しました。

③防災教育の充実

■防災学習の推進

各学校の防災学習推進の指針となる「防災教育の手引き」と教員向けの指導教材を作成しました。

■避難訓練の実施

文部科学省の示した「学校の地震・津波対策チェックリスト」または県が作成した「学校防災マニュアル」により、学校の防災体制の見直しを行い、すべての学校で避難訓練を実施しました。

基本目標 4 家庭・地域の教育力の向上

1 家庭・地域の教育力の向上

①家庭の教育力の向上

■「親育ち」支援の充実

保育所・幼稚園に通園する園児の保護者が一日保育体験をして、保育士・幼稚園教諭が指南役となって、家庭で実践する機会を設けました。こうした機会を通して、我が子の園での様子や園への理解を深めました。

また、市町3歳児健診事業や子育て支援センター、公民館に出掛け、未就園児の保護者への家庭教育の意識醸成に努めました。

3回にわたり「保護者のための教育力向上セミナー」を開催し、子どもたちが進路を切り拓くために必要な力や家庭が果たすべき役割について、有識者による講演を行いました。

(延べ700名参加)

家庭教育支援チームおよび市町教育委員会家庭教育担当者対象のネットワーク研修会を2回実施しました。家庭教育支援者として活動できる人材の養成およびそのスキルアップのための「子育てサポーターステップアップ研修講座」を、2会場で各8講座開催し、修了者として32名を登録しました。

家庭教育講座の企画を支援するために講師リストを作成し、PTA活動や公民館活動等での活用を促しました。親や地域の子育て支援に関心のある人たちを参加対象とした参加型学習講座の手引きとなるテキストを作成しました。

5月から10月まで、家庭教育支援テレビ番組「ぶらり子育てしゃべり隊」を放送しました。家庭教育電話相談「すこやかダイヤル」を週3日(年間141日)開設しました。

■保育所や幼稚園と連携した家庭の教育力の育成

保育所・幼稚園に通園する園児の保護者を対象に一日保育体験を実施し、家庭における育児・教育に関する助言やノウハウの提供を行いました。

また、園での保護者会等において、幼児とのコミュニケーションの機会を増やすグッド・トイや絵本の遊ばせ方を体験する出前家庭教育講座を開催しました。

■「子育ての知恵」の継承

福井の文化や担い手を育成するため、次代を担う子どもたちが県内の文化活動団体とともに地域の伝統文化や優れた芸術文化活動に参加し、身近な地域で芸術文化活動に参加できる「子ども文化塾」などを開催しました。

(一級の芸術・文化を体験した子どもの数 71, 637人)

■子育て支援機能の充実

一日保育体験を通して、育児や教育に関する不安や悩みを持つ保護者に対し、保育士や幼稚園教諭が助言を行いました。

また、保護者や祖父母等を対象にグッド・トイや絵本の素晴らしさを体感し、家庭教育の意識を高める講座を開催しました。

②地域の教育力の向上

■地域づくり・人づくりの推進

社会教育団体12団体への支援を行い、青少年、成人、女性など広範囲にわたる地域づくり・人づくりを進めました。

■地域による学校支援の充実

県内全ての小・中学校に設置されている「地域・学校協議会」を核として、地域人材を活用した学校ボランティアの導入や、学校開放や授業公開等の開かれた学校づくりの取組みを進めました。

県立青少年体験活動施設において、自然や産業など地域資源を活用した体験活動プログラム集を作成しました。

■放課後子どもクラブの拡充

高学年の受け入れに伴う既存施設の改修費等の軽減や運営費の助成などにより、子どもの安全・安心で健やかな活動場所の確保に努める市町を支援し、「放課後子どもクラブ」の数が217箇所（4箇所増）となりました。

基本目標5 生涯学習とスポーツの振興

1 生涯学習の振興

①生涯学習環境の充実

■多様で魅力ある講座の提供

福井ライフ・アカデミー講座として、地域活動講座、郷土学習講座、漢字文化講座、現代的課題講座、パソコン講座など428講座を行い、71,096人が受講しました。県民の多様なニーズに対応するとともに、いつでも、どこでも、誰でも学べる学習機会を提供しました。

■ボランティア講師の活動に対する支援

県民講師を育成する「県民講師養成講座」を開催し、76名が受講しました。県民講師による友愛塾47講座が開催され、延べ1,743人の方が受講しました。また、講師に認定・登録された方は、生涯学習センターの助言・支援等を受けながら、講座を企画・運営しました。

■在宅受講システムの整備

インターネット放送局で、講座を公開するために、著作権、経費、システム等の課題について検討しました。

2 生涯スポーツの振興

①スポーツを通じた健康づくりの推進

■スポーツを通じた県民の健康・体力の向上

県民スポーツ祭では、小学生の部を新設し、体験教室を拡大しました。大会チラシの学校配付や新聞のお知らせ等を活用した広報を実施し、年齢を問わず誰でも参加できる交流の部の参加者を増やし、多くの方にスポーツに参加できる機会を提供しました。

全国レクリエーション大会では、ニュースポーツを中心とする体験イベントを開催し、年齢を問わず気軽にスポーツに参加できる機会を提供しました。

■スポーツを身近にする環境づくり

県有施設の整備に当たり、国体の開催と将来の利活用を考慮し、ホッケー場の人工芝の張り替え、クレー射撃場改修工事の実施設計を行いました。また、福井運動公園については、具体的な整備計画を作成し、基本設計に着手しました。

総合型地域スポーツクラブの設立・育成を継続し、新たに1つのクラブが設立され、14市町・24クラブが活動を行いました。来年度に向け、1つのクラブ（福井市）で準備委員会を設置し設立準備に着手しました。

広報番組では、福井のアスリート、県民スポーツ祭や全国レクリエーション大会、総合型地域スポーツクラブを紹介し、国体に向けた強化策や身近に行えるスポーツ環境等の情報を提供しました。

■スポーツイベントの誘致・開催

平成26年1月の常陸宮賜杯第63回中部日本スキー大会の福井県開催に向け、岐阜県大会を調査・視察しました。式典の様子やスポーツと観光資源を組み合わせた取組みを参考に、大会に向けた準備を進めました。

平成30年開催予定の福井国体に向け、昨年度に引き続き会場市町の選定を進め、正式、特別、公開の全競技の会場地が決定しました。また、「スポーツの感動を広め、未来へつなげる」を基本目標とする開催基本構想の策定、各競技団体が実施する審判員等養成経費に対する助成などにより、着実に準備を進めました。

②平成 30 年の福井国体に向けた競技力の向上

■選手の育成と強化

「競技力向上対策推進計画」を基に、第 73 回国民体育大会に向けた計画的な選手強化を実施しました。

競技種目ごとに優秀な選手を集め、重点的に選手育成を進める中学校・高校について、重点強化校として 22 校・40 部活動を、強化推進校として 63 校・128 部活動を指定しました。

また、昨年引き続き、ジュニアから成年までの一貫した選手育成・強化を進めるため、有望選手 634 名に「チームふくい」の認定証を交付するとともに、競技別に中央からの優秀なコーチを招聘しての強化合宿を実施しました。

選手強化に必要な、体操器具やボート救助艇などの特殊競技用具、高額強化備品を 9 競技に整備し、練習環境の条件整備を図りました。

■指導者の育成と確保

日本体育協会等の公認指導者資格取得に対する支援や、競技団体の核となる人材育成の研修会を実施しました。また、中央からの優秀なコーチを招いた強化合宿等に県内指導者も参加し、資質向上に努めました。

■「1 県民 1 参加、1 スポーツ」の環境の整備

県民スポーツ祭では、親子体験教室を 17 種目に拡大、インディアカ・3B 体操など気軽にスポーツに親しむ場の提供や、レスリングやアーチェリーなどの国体正式種目を親子で体験してもらうことで、未普及競技への興味や関心を高めてもらい、福井国体に向けた選手の発掘にも取り組みました。

福井国体に向け、大会愛称・スローガンの募集・決定、マスコットキャラクターの募集を行いました。

また、各種イベントと連携した国体 PR 展や出前講座の開催、広報紙の発行を行うなど、福井国体の PR 活動を充実・強化し、福井国体への県民参加意欲の向上（22 年度：65.1% → 24 年度：72.7%）に努めました。

基本目標 6 心豊かな文化の振興

1 身近に文化を感じる環境づくり

①「見る」から「楽しむ」「参加する」文化へ

■身近に芸術を親しむ場の創設

公共施設や病院などでの演奏会の開催や福井県民総合文化祭の実施など、身近に芸術文化に触れる機会を充実しました。

■身近な文化を見つめ直し後世に継承

国指定に向け、各地区に伝わる「祭り・行事」（無形民俗分野）の悉皆調査を実施しました。25年度はその中から価値の高いものについて詳細調査を実施していきます。また、庭園（名勝分野）の特定調査を行いました。

白山信仰古文書の調査と報告書作成により2件を県指定文化財に指定し、また、庭園の測量調査も行いました。

さらに、23年度に県指定となった美術工芸品が重要文化財となりました。

■ふるさとの歴史・文化の研究

県立歴史博物館において、大野市内で発掘調査された遺物による発掘成果展や、重要文化財で泰澄ゆかりの仏像・神像である「泰澄像」を公開する企画展を開催しました。

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査により、金の粒子が付着した遺物が見つかり、遺跡内で金を製錬していた裏付け資料が得られました。また、越前焼窯跡について試掘調査や文献調査を実施し、連房式登窯を発見しました。

②文化施設をもっと身近に

■住民参加型の企画運営

ボランティアにより作品解説会の開催や展示監視業務への協力など、住民参加による文化施設の運営を行いました。

■子どもの創造力を育む美術館

夏休みに親子で鑑賞・創作を体験するキッズミュージアムを開催したほか、学芸員が館蔵品を学校で展示・解説する授業を行いました。

■福井ゆかりの人物や福井の歴史の発信

こども歴史文化館において、新たに石塚左玄、佐々木長淳らの先人や、中野希望、畑和也ら子どもが憧れるスポーツや料理の分野の紹介パネルを追加したほか、夏休みには、各分野で活躍している達人を講師とした「これきわくわく塾」（11コース）を開催し、科学おもちゃ教室等、年間のべ171回のイベントを行い、7,300人以上が参加しました。

県立歴史博物館において、大野市内で発掘調査された遺物による発掘成果展や、重要文化財で泰澄ゆかりの仏像・神像である「泰澄像」を公開する企画展を開催しました。

2 文化教育の推進

①文化教育の推進

■すべての子どもたちが一級の芸術・文化に触れる機会を拡充

県立音楽堂でのオーケストラの鑑賞や、学芸員による博物館での体験型授業、学校での出前授業など、子どもたちが芸術・文化に触れる機会を充実しました。

学ぶ機会、伝え聞く機会が少なくなっている童謡・唱歌を、幼児・父母・祖父母が世代を超えてふれあい、より深くつながるためのツールとして共有できるように、由紀さおり氏による「童謡で伝える会」を県内9箇所で開催しました。39園の園児とその保護者や祖父母等約2,750名が、鑑賞を通して童謡や唱歌に親しみました。

■地域の文化活動家からの学び

文化インストラクターを講師とする芸術文化体験講座の開催など、子どもたちが地域の文化活動者から身近に芸術文化を学ぶ機会を充実しました。

②文化の創り手・演じ手の育成

■地域グループなど文化団体（活動者）の支援の充実

若手活動者による芸術・文化活動や地域の文化資源を活用したまちづくり、次世代育成などを行う文化活動団体に、きめ細やかに支援を行いました。

■子どもたちの文化活動の質の向上

中学・高校の部活動などにおいて、一流の芸術家から子どもたちが直接指導を受ける機会を充実しました。

■次世代アーティストの育成

プロの弦楽器奏者の学校（社北小、朝日中など）への派遣をはじめ、一流の芸術家から子どもたちが直接指導を受ける機会を拡充しました。

3 「文字の国 福井」の推進

①「文字の国 福井」の推進

■文字文化の普及

幅広い世代を対象にした「白川文字学」の漢字講座やパネル展等には、大人から子どもまで3,600人を超える参加がありました。また、平凡社から出版した「漢字解説本」は8刷を重ね、これまでに4万5千部を発行しました。

平凡社から出版した漢字学習副読本「白川静博士に学ぶ 楽しい漢字学習」は3刷を重ね、2万1千部を発行しました。

■県内外への発信

東京都内で一般向けや目黒区小学校長会での講義（32名参加）、八雲小学校での漢字教室（82名参加）を開催しました。また、都内で白川静氏の顕彰活動を行うグループ（白川静会）と連携したイベント（115名参加）を開催しました。

■ゆかりの作家や詩人の作品に親しむ「ふるさと文学館」の整備

県内外の文学などの専門家による基本計画策定委員会の検討結果を踏まえ、計画を策定しました。また、福井ゆかりの作家、福井県を舞台とした作品に関する直筆原稿や初版本等の資料収集を行い、平成26年度に県立図書館内に開設するための準備を進めました。

VI 有識者からの意見

○東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美

新たな学校教育のモデルを常に打ち出し、実際に高い学力の定着の実績を積み重ねてきておられる福井県の教育について、平成24年度の教育委員会の管理及び執行状況に関してご報告を受け、また私自身が10年間ほど福井の学校の公開研究会や研修等のあり方に関わらせていただいていた経験も踏まえ、見解を記すことにしたい。

1 福井県教育委員会の会議開催等の状況に関して

昨今教育委員会制度のあり方に関してさまざまな議論が出されている。しかし福井県では、年21回の教育委員会会議が開催されるとともに、教育委員が県内外の高等学校や特別支援学校視察にも精力的に行かれ、実際の現場の実態や教育に直接関わる教師や生徒の声をもとに教育の方向性を考えようとされておられる様子を読み取ることができる。それによって、教育委員会が自律的に、県の教育のあり方を安定的長期的視点からみて方向性を検討していかれることが今後共に期待される。

2 教員採用試験等の改善

教育の質は、優秀な教員の採用、育成と研修によって確保される。その優秀な人材確保のために採用試験の透明性、公平性のために採用試験等においてさまざまな改善がなされるとともに、専門性の高い教員の採用にふさわしい有り方が不断に見直され検討されてきている様子を伺える。県に現在の教育にとって必要な専門性を有した人材を採用育成する試験のあり方の工夫は高く評価できるものであり今後も期待したい。

3 教育関係施策の実施

平成23年度からの5年間の福井県教育振興基本計画に基づく6つの目標が、それぞれに県独自の特色をもってバランスよく多面的に実施されている。「確かな学力の育成」のために、「意識技能の確実な習得と活用力の育成」として、学力向上センターを核として、全国学力学習状況調査結果をさらなる授業改善に具体的にどの学校でも活かせるよう、課題克服教材集を作成するなど、課題解決の具体策を実践の場の改善に直接繋げるよう適切に実現の努力をされてこられていることが、高く評価できる。また「国際人を育成する英語教育の充実」においても、「FUKU—English」の県オリジナル教材を作成し、グローバルな人材育成を目指す中で、福井県の文化を大事にする教育の試みがなされてきている。白川文字学による独自の漢字学習の推進も、このような観点から高く評価することができる。これからのグローバル社会にもとめられる確かな学力を育成すると同時に、その中でも、県の文化財を教材としていかした教育開発がなされてきている点に、その特徴を指摘し評価することができる。学力の高い県ということで全国的にも基礎学力の面だけが評価されがちであるが、今後共県の独自性を出した教育内容の工夫という点も推進を頂きたい。

また同時にこのようなマニュアルや教材を県教育委員会が提供するだけでなく、教員自身の指導力向上こそが教育の要である。福井大学教職大学院等大学を中心とした学校との連携推進、スクールリーダーコースの設定や指導主事による訪問研修等、校内研修の充実は今後も福井県の教育推進の要となる。この意味で、教員同士の学び合いの促進のために、24年度から、中高接続を意識して、中学と高校の教員の授業の相互参観による授業改善に新規に取り組み始められ「中高接続ガイド」も作成されてきているが、このような事例は全国でも他になく、今後さらに福井県の教育施策としてその先進性を生かした取り組みとして中長期的に推進されることが期待できる。また中高等学校の接続だけではなく、初等中等教育の一貫性を重視するためにも、「幼児教育の推進」において幼児教育センターが開設された点は評価できる。これを機に保幼小連携の推進については、今後さらに一層の推進がなされることがもとめられよう。またこのような取り組みは、「一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実」として特別な支援のニーズを必要とする子どもたちにおいても、「生徒指導・教育相談体制の充実」においても、一貫性をもたらす連携の取り組みが、今後さらなる課題として求められるであろう。

授業等教育実践レベルでの教育の充実施策とともに、「信頼される学校づくりの推進」という学校づくりのレベル施策においても、教職員の多忙化解消へむけた取り組みや学校・家庭・地域が一体となった教育の推進は、福井県の強みをいかしたコミュニティを基盤とした今後の学校づくりへの取り組みとして評価できる。県立高等学校の再編整備として総合産業高校の開設や中高一貫校の開設も、今後の高校教育改革、中等教育の充実発展の一環として位置づけられよう。これらについては長期的にその改革の試みを内外から評価していくことが改革のあり方として今後求められることになるだろう。

その他上記にあげた点以外においても、今回の点検報告書を拝見すると、きめこまかく多方面で教育の改革推進が進められていることを読み取ることができる。これらは、福井県の教育の推進に尽力されている教育委員会のみなさんの各部署における尽力と協同が結実したものであると考えられる。また報告書に関しては、点検と同時に自己評価という点では、今後取り組み実績のみならず自らの評価の記載も必要であろう。今後も「教育県 福井」の新たな試みに大いに期待したい。

○ 元 福井県PTA連合会 会長 福岡 秀樹

教育委員会会議の運営については、年間21回の会議開催の中で57件の附議事項の審議におよび、内容から見ても多くの活発な議論を展開して充実した運営が行われており、委員会がしっかりと機能していると評価します。

また、23年度に策定された福井県教育振興基本計画に基づき実施された教育関係施策の取組実績についても、6つの基本目標を掲げて、その目標達成に向けて17項目43施策の展開に努めました。その実施結果の概要を点検させていただき、取組みについては概ね評価できるものと判断します。しかしながら、取組みの実施結果に伴う、課題や今後の方向性についてもしっかりと把握し、フォローアップしていく必要があると考えます。今後の点検評価への反映を願います。

【個々の施策取組みの実績評価（主なもの）】

- ① 「生きる力につながる確かな学力の育成」においては、福井県独自の少人数教育によるきめ細やかな指導の推進、教育研究所の有効活用やクロスセッション導入による教員の指導力向上の取組みなどを特に評価します。
- ② 「豊かな心と健やかな体の育成」においては、福井県の実情を踏まえた環境教育の推進やふるさと教育の推進を評価し、今後のさらなる取組みに期待します。
- ③ 「信頼される学校づくりの推進」においては、教職員の多忙解消への取組み、メンタルヘルスケアの推進による子どもたちと向き合う教育、スクールプランの充実、安全教育、防災教育の充実を評価し、今後のさらなる取組みに期待します。
- ④ 「家庭、地域の教育力の向上」においては、PTA活動や地域の子育て支援活動に利用できる家庭教育講座を企画支援するための講師リストを作成しましたが、今後は利用回数、実績報告、分析などのフォローアップをしていく必要があると考えます。また、学校ボランティアの導入についても同様に考えます。
- ⑤ 「生涯学習とスポーツの振興」においては、いつでも、どこでも、誰でも学べる多様で魅力ある学習機会を提供したことによる生涯学習環境整備を評価します。
- ⑥ 「心豊かな文化の振興」においては、福井ゆかりの人物、教科書では学べないより深い学びを企画し、「机上」での学びではなく「参加し、楽しむ」文化の継承、推進を評価します。

各種教育施策は、いずれも限られた予算の中でバランスよく計画され、適宜実施されたこと、数値化が難しい項目の分析を可視化できるように努められていることを評価します。

ツイッター、ライン、フェイスブックなどにみられるSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の登場で価値観が急速に変化してゆく現代社会において、捨てるはならない大切にすべき基礎、基本となる資質（知識・技能）の習得、そして、そこをベー

スとした価値観の多様性への対応（リテラシー教育）は今後必須の課題であると考えます。

「ていねいな教育」「きたえる教育」という基本理念に基づき、福井県ならではの独自性あふれる良い意味での「ガラパゴス化」と「グローバルスタンダード」の教育を目指していただきたい。

今後も福井県で取り上げている「政策推進マネジメントシステム」に基づき、「分析」「計画」「実施」「評価」を継続されることを希望し、子どもたちの健やかな成長のためにより良い環境づくりと「人材」を「人財」と変えていけるような施策取組みをお願いします。

